

# 11 確かな学力を育む授業

## 1 「1 単位時間」から「単元や題材など内容や時間のまとまり」へ

資質・能力の育成を目指すにあたり、各教科の指導においては、単元や題材などのまとまりを見通した授業改善が求められます。「いわての授業づくり3つの視点」は本県が取り組んできた授業づくりの基本ですが、単に1単位時間の「型」と捉えるのではなく、主体的・対話的で深い学びの実現を図るための授業改善の視点として、単元や題材などのまとまりの中でも捉えることが大切です。

### 【取組のポイント】

学習指導要領総則では、「各教科等の指導内容については、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにすること」と示されています。

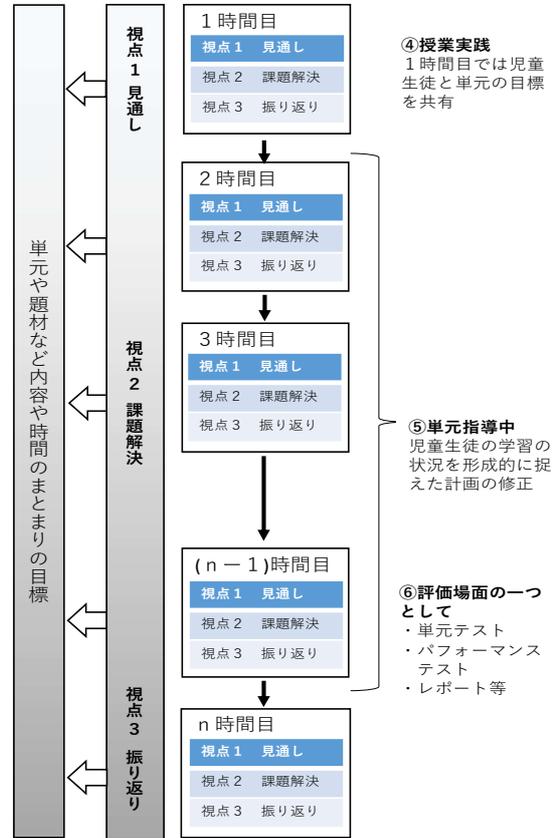
また、学習評価においても「各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること」とされています。

右図はその趣旨を踏まえた単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した授業づくりの構想例です。本県では、「いわての授業づくり3つの視点」が授業づくりの基本として定着してきていますが、今後は1単位時間のみならず、長期的な視点で児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業を構成し、実践するとともに、指導した結果について指導と評価の一体化の視点から協議することを通して、児童生徒の資質・能力の向上を目指します。

### 単元や題材など内容や時間のまとまりでの授業づくり(例)

<単元の指導に入る前>

- ①この単元で身に付けさせたい資質・能力は何か
- ②評価場面と評価方法をどうするのか
- ③どのような指導計画で迫るのか



<単元の指導を終えて>

- ⑦児童生徒のつまづきへの対応  
自身の指導の振り返り

### 参考 「指導の評価と改善」

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものである。「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習の評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

◇ 学校の組織的な取組 × 教職員一人ひとりの資質向上 × 働き方改革の推進

学校の組織的な取組は、教育課程と連動して教育の質の向上につながることを目指すものです。そして、各学校がさまざまな教育課題に直面する中、多忙化の解消や勤務時間の適正化、負担の軽減、教職員の業務の在り方の見直しなど、働き方改革の推進と一体的に取り組むべきものです。

校内研究や各種研修、各事業等をトータルでマネジメントし、一部教職員だけに過度な負担・負担感が生じにくい在り方を追求することや、教職員・児童生徒の双方に余白を創出し、豊かな教育活動につなげることが大切です。学校全体で、個人としても、組織としても改革・改善を進めながら、若手や経験の浅い教職員を支え、教職員一人ひとりの資質向上を目指したいものです。

例えば、このような取組をしている学校があります。

- ・ 授業研究会の前に、授業づくりを検討するグループを編成し、他学年や他教科の教職員が児童生徒役となって模擬授業等を行い、学年や教科を超えて話し合えるようにしている。
- ・ 管理職と研究主任が、教職員の研修等の参加希望を聞き取り、総合教育センター希望研修等を積極的に活用し、参加体制を整え、教職員一人ひとりの資質向上に取り組んでいる。
- ・ 学級担任や教科担任が、授業の準備等に時間をかけることができるように、必要に応じて資料作成等を担任外や他学年の教職員で分担するなど、お互いに手伝えるようにしている。

## 「いわての授業づくり3つの視点」

視点1 「学習の見通し」	視点2 「学習課題を解決するための学習活動」	視点3 「学習の振り返り」
<p>☆☆ 児童生徒の姿 ☆☆</p> <p>1 自らの気付きや考え、学習経験などを基に、友だちや先生との対話を通して、<u>学習のねらいを把握したり、学習課題を見いだしたり</u>している。</p> <p>2 課題解決に向けて、<u>既習内容(用いるもの)や、考え方や手順(用い方)を確認し</u>、解決方法や結果を予想するなど、学習の見通しをもっている。</p>	<p>☆☆ 児童生徒の姿 ☆☆</p> <p>3 わからないところは自分で調べたり、友だちや先生に質問したりして、主体的に課題解決に取り組んでいる。</p> <p>4 学習活動を通して、自分の考えやわかったことなどを、既習内容と関連付けて整理したり友だちの考えと比べたりして、<u>自分の考えを広げたり理解を深めたり</u>している。</p>	<p>☆☆ 児童生徒の姿 ☆☆</p> <p>5 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、<u>できるようになったことやできなかったことなど</u>、課題解決の過程や成果を適時に自分の言葉で表現している。</p> <p>6 <u>評価問題等</u>を通じて身に付けたことを振り返り、課題解決の達成感や学習内容の有用性を感じながら、<u>次時の学習や今後の生活に結びつけよう</u>としている。</p> <p>7 自分自身の学ぶ態度(粘り強さ、自己調整力等)の変容を自覚している。</p>
<p>★★ 授業づくりのポイント ★★</p> <p>ア 各教科等において育成を目指す資質・能力を、<u>単元など内容や時間のまとまりごと</u>に、児童生徒の姿として具体化する。 (目標と評価規準の明確化)</p> <p>イ 児童生徒の気付きや考え、興味・関心から問いを引き出しながら、必然性のある学習課題を設定する。</p> <p>ウ 児童生徒が課題解決の方法や過程について、見通しをもったり、学習を振り返ったりすることができるように<u>構造的な板書やノートづくり</u>を計画する。 (視点1～3に共通)</p>	<p>★★ 授業づくりのポイント ★★</p> <p>エ 児童生徒が各教科等における「<u>見方・考え方</u>」を働かせながら、ICTの効果的な活用を図るなど、<u>深い学びの実現を図る</u>学習活動の充実を図る。</p> <p>オ 児童生徒の<u>つまずきを想定して</u>、学習活動や支援等を計画し、素朴なつまずきなどを表出しながら粘り強く取り組めるようにする。 (<u>学習状況の見取りや指導に生かす評価の充実</u>)</p> <p>カ 児童生徒が、対話等の活動を通して、自分の考え等について<u>評価・改善(自己調整)</u>できるようにする。</p>	<p>★★ 授業づくりのポイント ★</p> <p>キ 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、学習を振り返る機会を設け、<u>学んだ意義等を自覚できるように</u>促す。</p> <p>ク <u>評価問題(含MEXCBT等)</u>や自己評価・相互評価等により、資質・能力を身に付けた<u>達成感や学習内容の有用性</u>などを実感できるようにする。 (記録に残す評価場面の精選)</p>

※ 平成27年策定、令和2年改訂、令和8年一部改訂

授業アイデア例など、学力向上関係の資料等は、県HPからダウンロードできます。

岩手県  
学力向上ポータルサイト



<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/gakuryokuportal/index.html>